

ぬまた くち ひづめごろう
安芸国沼田郡久地村 日詰吾朗旧蔵文書 仮目録

広島県立文書館

平成 27 年 (2015) 12 月

凡 例

- 1 本目録には、安芸国沼田郡久地村 日詰吾朗旧蔵文書を掲載した。
- 2 目録の各項目は次のとおり。

請求記号 本文書群の群番号は (201411) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる

【例】 1 → 201411/1

表 題 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。内容等で補記すべきものがあれば()で補った。集合形態をした資料の内訳を示す場合には、頭に“o”を付けた。

年 代 資料に記された作成年月日を探り、推測した場合は()書きで表記した。

作 成 資料に授受関係のあるものは→で結んで表記した。多人数にわたるものは、適宜「外○名」と略記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

備 考 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

- 3 文書の配列は請求記号順とした。
- 4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

【文書群概要】

安芸国沼田郡久地村^{くち} 日詰吾朗^{ひづめごろう}旧蔵文書（請求記号 201411）

江戸幕府の大坂御金蔵で保存されていた享和2年分「大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳」

出所 日詰家

出所地名 大坂／大阪市〔現在〕

分量 1点（1冊）

収蔵までの経緯 平成26年7月16日、三浦忍文書調査員を通じて寄贈。

年代 享和2年（1802）（作成は享和3年11月）

歴史 帳面の奥書によれば、28歳で戊辰戦争の鳥羽伏見の戦いに従軍した久地村の日詰弁蔵が、大坂城落城の際に、幕府御金蔵からこの帳面と蔵屋敷図、具足・鉄炮・陣羽織等を得たという。日詰弁蔵は応変隊員として戊辰戦争に参加したと思われるが、その名前は「芸藩志」に掲載されている応変隊員の名簿では確認できない。

日詰家は、樋爪城（安佐北区白木町井原）城主の樋爪氏の系譜を引くという。日詰弁蔵は久地村の木挽商で、後に「吾朗」と改名した。子孫は可部南に移転（家号は「中屋」）したが、昭和17年の大水害で、4冊あったうち3冊を失い、残った1冊を寄贈したという。

内容 天保4年の同表題の史料が『三井文庫論叢』47号（2013）で紹介された。それによると、その史料は、天保4年分の大坂御金蔵のすべての収入・支出を江戸の勘定所に報告するため作成・提出され、老中以下の監査と承認を経て、大坂御金蔵に返却されたもの。これは、同内容の享和2年の史料と思われる。但し、奥の2丁分が切り取られている。

参考文献 近世経済史料研究会「天保期幕府財政の新史料(1)天保四年「大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳」納の部」(『三井文庫論叢』47号(2013))、「天保期幕府財政の新史料(2)天保四年「大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳」渡の部」(『三井文庫論叢』48号(2014))。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

(2015.7.27 記述／西村)

【目録】

番号	表題	年代	作成	形態	数量
1	大坂御金蔵金銀并灰吹銀納払御勘定帳 享和 二戊年分	享和 3.11.	服部安右衛門 [◎] 外 5名→御勘定所<奥書(享和 4.6) 男谷平蔵 [◎] 外 19名→水野若狭守殿外 5名>	縦冊	1冊